

令和 2 年度事業計画

定款第 38 条に基づき、理事会で承認された
本会の令和 2 年度の実業計画について報告するものである。

1. 会 員 拡 大
2. 運 営 ・ 広 報 事 業
3. 国 際 関 係 事 業
4. 催 物 事 業
5. 調 査 研 究 事 業

令和2年度事業計画

前年度に策定したJTAビジョンを踏まえ、それに取り上げられた事項の実現に向けた諸活動を行うとともに、活動の活性化を図る。調査研究事業では、トンネルや地下空間の建設及び維持管理に関する当面の課題や会員からのニーズに積極的に応える。催物事業においては、施工体験発表会、現場研修会（見学会）、講習会等を実施し、人材育成のための機会や情報を提供する。国際関係事業においては、ITA加盟国の代表機関として関係諸国との技術交流に努める。また、ホームページの充実や会誌、図書の頒布を通じて、トンネル技術に関する情報を会員及び社会に広く広報する。

1. 会員拡大

会員から意義のある活動を行う協会として期待されるよう努め、個人および関係法人の入会を勧誘し、事業の運営基盤の安定を図る。

2. 運営・広報事業（総務委員会）

本会事業の全体調整、予算・決算に関する諸事項、委員会活動の把握など、本会の事業目的を達成するための運営管理を行う。

また、協会の活動内容や各種研究成果の広報活動を行うとともに、会誌の会報欄、巻頭言、現場便りについて編集作業を実施するとともに、協会誌としてふさわしい内容か否かについて監理していく。

(1) 事業運営上の重要事項について検討する。

①前年度に策定したJTAビジョンに基づき、それに取り上げられた事項の実現に向けた諸活動を行う。

(2) 協会の広報活動に努める。

②協会ホームページの充実に努める。また、ホームページ及び会誌「トンネルと地下」等により広報活動の充実に努める。

③積極的広報のため、登録頂いているE-mail配信の更なる活用を図る。

④各種委員会の研究成果である貴重な技術情報の活用を図るための広報活動に努める。

3. 国際関係事業（国際委員会）

- (1) ITAを通じてわが国のトンネル技術情報を積極的に発信するとともに、ITAの活用に努める。
また、わが国のトンネル技術の情報発信のため、前年度に引き続き、WTC2020（マレーシア・クアラルンプール）で会員企業等と共同で技術展示を行う。
- (2) トンネル技術に関する海外の雑誌の記事を抽出・翻訳し、会誌等で紹介する。
- (3) Tunneling Activities in Japan 2020 を刊行し、わが国の技術を積極的に海外に広報する。
- (4) 英文ウェブサイトを活用して、海外に向けた情報発信を行う。

4. 催物事業（事業委員会）

当面する技術課題を踏まえた各種催物を企画し、トンネル関係の人材育成のための機会や情報の提供に努めるとともに、トンネル関係者の実務上有益な知識の向上を図る。

また、各国トンネルの視察、トンネル技術情報の収集と技術交流を目的として、本年度に海外トンネル技術調査（オーストリア、フランス）を実施し、その結果を会誌に掲載する。

(1) 現場研修会

国内の鉄道、道路、電力、地下鉄、下水道等各種トンネル工事現場での研修会（見学会）を随時開催する。

(2) 発表会

第86回施工体験発表会は、山岳トンネルについてテーマを「課題克服に取り組んだトンネル工事－新技術、創意工夫、周辺環境への配慮－」とし、第87回施工体験発表会は、都市トンネルについて「都市における各種制約下でのトンネル、地下構造物工事－新設、改良・再構築の施工事例－」として、それぞれ実施する。

(3) トンネル技術ステップアップ研修会

トンネル実務経験5～10年程度の中堅技術者を対象としてトンネル技術ステップアップ研修会について、山岳部門、シールド部門をそれぞれ実施する。

(4) 講習会・講演会

トンネル技術者のための地相入門講習会、山岳トンネル維持管理業務講習会の基礎編および実践編をそれぞれ実施する。また、最近の話題をもとに、随時、講習会・講演会を企画実施する。

5. 調査研究事業

1) 技術委員会

今日的な課題や会員のニーズを把握するため情報収集に努め、調査研究に反映するとともに、多様な分野の会員の参画を求めて活動を実施する。各小委員会の活動計画の概要は、以下のとおりである。

(1) 共通技術小委員会

- ①ホームページ上の資材機械検索リストの内容の充実を図るため、掲載様式を改めるとともに、関連会社への資材機械の掲載依頼を実施する。
- ②他の委員会に属さない今日的な課題を取り上げた調査検討を行う。

(2) 山岳工法小委員会

- ③前年度に整理した「未固結ないし低固結の地山における小土被りでの山岳工法によるトンネル設計施工技術」について、概要を整理して会員に情報提供する。また、前年度に取りまとめた吹付けコンクリートの新しい急結剤の使用実態報告を整理し、会員に情報提供する。
- ④前年度に引き続き、切羽観察について情報交換を実施する。また、切羽観察の実務的なポイントを「切羽観察担当者のための基礎知識Q&A(仮題)」として取りまとめた資料については、ホームページの会員専用サイトに掲示する。
- ⑤前年度に引き続き、防・排水工に対する現状や実態等について情報交換を行うとともに、得られた情報を整理して改善点や留意点について整理を実施する。
- ⑥前年度に引き続き、団体会員加入会社から支保材料や施工法の話提供について申し出のあった場合、内容がふさわしいものについて検討を実施する。

(3) 都市トンネル小委員会

- ⑦「シールド工事における新技術」を取り上げて調査検討を実施する。

(4) 安全環境小委員会

- ⑧安全対策として「肌落ち」を、環境保全として「重金属」を取り上げて調査研究を実施する。

(5) 保守管理小委員会

- ⑨山岳トンネル維持管理業務講習会基礎編及び実践編を、アンケート結果等を踏まえ、改善して実施する。

⑩前年度に引続き、トンネル維持管理に携わる技術者育成に寄与することを目的として作成した「トンネル維持管理業務技術者のためのQ&A(仮称)」を刊行する。

2) 受託研究委員会

これまでに蓄積されたトンネル技術に関する成果を踏まえ、委託者(発注者)の期待に応えるように調査研究を実施する。